

# 札幌なにかができる経済人ネットワーク 180回目の例会で認知症を勉強

8月21日、さっぽろテレビ塔の会議室で「札幌なにかができる経済人ネットワーク」の第180回例会が開催された。

を続けて180回を迎えた。(過去の講演テーマはホームページ「札幌なにかができる」で検索)

本誌もこれまで何度か紹介しているが、このネットワークは、北海道を愛する熱意ある有志の研究会として2006年6月に産声をあげた。

会員、講師は延べ500人を超え、政界や諸官庁、経済、金融、教育のほか、メディアや芸術家、学生まで、文字通り多様なネットワークを持つのが大きな特徴だ。

以来17年間数回の欠会はありながらも、またコロナ禍にあつても月例会

よると、例会では折々の地域課題を取り上げ、会員同士の「気づき」と解決策に「自分たちはなにができるか」を問いつけていくという。



▲講師の内海久美子医師

今回の例会は、本誌6月号でも取り上げた砂川市立病院認知症疾患医療センター長の内海久美子医師と会場をオンラインで結び、認知症の現状と課題について勉強した。

参加者は、経営者や会社員のほか、市議、大学教授、実際に介護に携わっている主婦や80歳を超えた高齢者など、これまた多岐にわたる。

開催日はちょうどアルツハイマー病の治療薬が認可されたこともあり、我が身や家族の予防方法、回復のために何を心掛けるかよいかなど質問が続き。関心の高さをうかがわせた。

中でも、参加者の大半が「初めて知った」と驚いたのが、深刻な高齢化社会問題に直面しているから、札幌市は全国の政令指定都市の中で唯一、認知症疾患医療センターを設置していないということ。

認知症の人が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、地域の認知症疾患の保健医療水準の向上を図るのも役割の一つだ。

国の計画では、2次医療圏ごとに1カ所としているため道内では7圏域がまだ未設置。

「札幌なにかができる経済人ネットワーク」の10月例会は10月13日(金)18:30からさっぽろテレビ塔「すずらん」ホールで。ウクライナの現地取材を敢行し『戦時下のウクライナを歩く』(光文社新書)を出版した元朝日新聞記者、岡野直氏を迎えてウクライナの現状と戦争の現実を勉強する。

公開例会のため「関心のある人は誰でも申し込んでほしい」と越智氏は呼びかけている。

メールでの申し込みは [info@jitsugenkikaku.com](mailto:info@jitsugenkikaku.com) へ。